

令和8年度第1回淡路市総合教育会議 議事要旨

日時 令和8年5月29日（金）午後3時30分～午後5時00分

場所 淡路市役所2号館3階 大会議室4・5

協議事項

- （1）淡路市教育大綱について
- （2）淡路市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
- （3）意見交換

出席者 市長 戸田 敦大
教育長 角村 光浩
教育委員 田中 道代(職務代理)、岸本 伸明、丹野 典子、久保 雅一、

企画情報部次長兼まちづくり政策課長 平本 雅稔
企画情報部まちづくり政策課係長 宇城 英稔
企画情報部まちづくり政策課主査 明石 那奈
教育部長 水名口 博行
教育部長兼指導主事 山本 哲
教育部付部長（公民館、図書館担当） 奥田 拓也
教育部次長兼教育総務課課長 岡山 正道
教育部教育総務課係長 長田 圭介
教育部教育総務課主査 吉田 和樹
教育部学校教育課課長 橋ヶ迫 健

1 開会

挨拶 戸田市長

2 協議事項

- ・事務局より傍聴規定に基づき会議公開の説明
- ・議長（市長）より本会の目的・趣旨の説明

(1) 淡路市教育大綱について事務局より説明

委員：国の教育振興基本計画や兵庫県教育創造プランを確認したが、「可能性」、「共創」、「人づくり」が共通する重要なキーワードであると感じた。

委員：国や県の計画は子どもを中心に据えているが、淡路市の教育大綱は市民全体を対象としている点が特徴であり、この視点は大切にすべきである。

委員：基本理念については、「一人ひとりの可能性を引き出し、共創で未来を切り拓く人づくり」の方が望ましいと考える。特に「一人ひとり」、「可能性」、「共創」、「未来を切り拓く」という表現は、国の方向性とも一致している。

委員：第2案は分かりやすい表現であるため、両案の良い部分を組み合わせることも検討してはどうか。

委員：重点目標については、おおむね整理されているが、「寄り添う教育」や「個別最適な学びと協働的な学び」については、今後さらに具体的な内容を示していく必要がある。また、生涯学習やリカレント教育の視点を盛り込んでいることは評価できる。

委員：「学びを支える環境の充実」は ICT だけではなく、学校施設整備や教職員の資質向上も含めて考える必要がある。教育センター機能の充実や教職員研修の充実も重要である。

委員：「一人ひとりに寄り添う教育」の実現に向けては、不登校支援や居場所づくりなどをどのように具体化するかが重要である。教育センターと青少年センターの適応指導教室との連携の在り方についても、検討が必要である。

委員：プール施設など学校施設の老朽化も課題であり、ICT 環境だけでなく教育環境全般の整備を進めてほしい。

委員：基本理念については、第2案の方が、市民や保護者にとって分かりやすい印象を受けた。

委員：教育は、学校だけでなく地域全体で支えるものであり、「つながり」や「共創」の視点は重要である。

委員：重点目標については、バランス良く整理されていると思うが、今後具体化する際には、保護者支援の視点も取り入れてほしい。

委員：外国籍家庭や多様な背景を持つ家庭への支援も重要になってくると考える。

委員：地域連携については、地域の担い手不足も課題であり、持続可能な仕組みづくりが必要である。

委員：淡路市の教育の特徴として、人と人とのつながりを生かした教育が重要である。

委員：多様性を認め合う共生社会の実現や、自己肯定感の向上につながる教育を、進めていく必要がある。

委員：協働的な学びや地域との関わりを通じて、自分を認め、他者を認める力を育んでいくことが重要である。

委員：基本理念については、第2案の方が分かりやすいと感じる。

委員：教育大綱は、子どもだけではなく、全世代を対象としたものであり、生涯学習や社会教育の視点も大切にしてほしい。

委員：誰もが理解しやすい言葉で表現することが重要である。

教育長：基本理念については、内容的に両案に大きな違いはなく、一案の重なる部分の表現方法の整理が必要であると考えている。重点目標については、おおむね整理されているが、「教職員の働き方改革」や「淡路らしさを生かした教育」については、表現の整理が必要であると考えている。具体的な施策については、教育振興基本計画の中で整理していきたい。

（２）淡路市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について事務局より説明

市長：保護者連絡アプリについては、保護者からも好評であり、学校と家庭双方の負担軽減につながっている。

委員：勤務時間の削減だけでは、働き方改革にならない部分もある。

委員：教職員は、勤務時間外に授業準備等を行っている実態があり、教育の質との両立を考える必要がある。また、若手教員を育成する時間が確保しづらくなっていることも課題である。

委員：教職員の負担軽減は重要であるが、働きがいや教育への情熱を失わないことも大切である。時間の削減だけでなく、教職員がやりがいを感じられる学校づくりも必要である。

委員：勤務時間外自動音声電話の導入については、保護者連絡アプリと併用することで、効果が期待できる。

委員：働き方改革によって生まれた時間を、どのように子どもたちへの関わりや教育の質向上につなげるのかを、保護者にも分かりやすく示していくことが重要である。

（３）意見交換

３ 閉会